

Chapter 9

平面上的の曲線と 複素数平面

sample

9

B

解答時間
12分解説
327頁

i は虚数単位とする。複素数 w と 0 でない複素数 z が

$$w = z + \frac{2}{z}$$

を満たしている。

$z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$, $w = x + yi$ (r は正の実数, θ , x , y は実数) とおくと、 x , y を r , θ を用いて表すと、

$$x = \boxed{\text{ア}}, \quad y = \boxed{\text{イ}}$$

となる。

ア, イ の解答群 (同じものを繰り返し選んでもよい。)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| ④ $\left(r + \frac{2}{r}\right) \sin \theta$ | ① $\left(r + \frac{2}{r}\right) \cos \theta$ | ② $\left(r - \frac{2}{r}\right) \sin \theta$ | ③ $\left(r - \frac{2}{r}\right) \cos \theta$ |
| ⑤ $\left(\frac{2}{r} - r\right) \sin \theta$ | ⑥ $\left(\frac{2}{r} - r\right) \cos \theta$ | ⑦ $\left(r + \frac{1}{r}\right) \sin \theta$ | ⑧ $\left(r + \frac{1}{r}\right) \cos \theta$ |

(1) 複素数平面上で、点 z が原点を中心とする半径 2 の円周上を動くとき、 $r = \boxed{\text{ウ}}$ であり、点 w が描く曲線の概形は $\boxed{\text{エ}}$ となる。

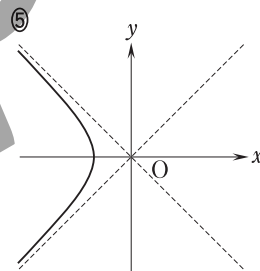
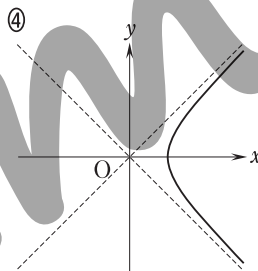
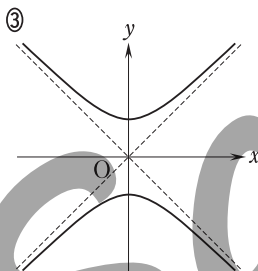
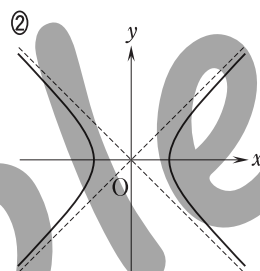
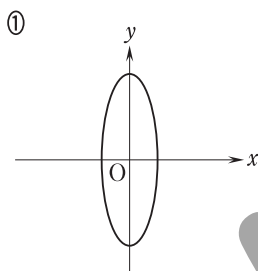
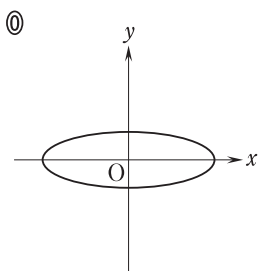
(2) $\theta = -\frac{\pi}{4}$ とする。

このとき、

$$x-y = \sqrt{\boxed{\text{オ}}} r, \quad x+y = \frac{\boxed{\text{カ}} \sqrt{\boxed{\text{キ}}}}{r}$$

となり、さらに、複素数平面上で点 z が $r > 0$ を満たして動くとき、点 w が描く曲線の概形は $\boxed{\text{ク}}$ となる。

$\boxed{\text{エ}}$ 、 $\boxed{\text{ク}}$ については、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。ただし、同じものを繰り返し選んでもよい。



ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク

9

解答記号		正 解	チェック	解答記号		正 解	チェック
ア		①		(2)	$x-y=\sqrt{\text{オ}}r$	$x-y=\sqrt{2}r$	
イ		②			$x+y=\frac{\text{カ}\sqrt{\text{キ}}}{r}$	$x+y=\frac{2\sqrt{2}}{r}$	
(1)	$r=\text{ウ}$	$r=2$			ク	④	
エ		③					

【解説】

$z=r(\cos\theta+i\sin\theta)$ を $w=z+\frac{2}{z}$ に代入すると、

$$\begin{aligned} w &= r(\cos\theta+i\sin\theta) + \frac{2}{r(\cos\theta+i\sin\theta)} \\ &= r(\cos\theta+i\sin\theta) + \frac{2}{r}(\cos\theta-i\sin\theta) \\ &= \left(r+\frac{2}{r}\right)\cos\theta + i\left(r-\frac{2}{r}\right)\sin\theta. \end{aligned}$$

一方、 $w=x+yi$ であり、 $x, y, \left(r+\frac{2}{r}\right)\cos\theta, \left(r-\frac{2}{r}\right)\sin\theta$ は実数であるから、

$$x = \left(r+\frac{2}{r}\right)\cos\theta, \quad y = \left(r-\frac{2}{r}\right)\sin\theta. \quad \dots\text{①}$$

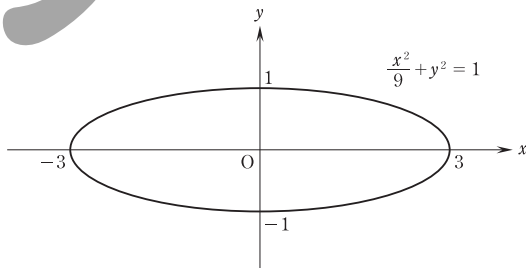
したがって、 には が、 には がそれぞれ当てはまる。

(1) 点 z が原点を中心とする半径 2 の円周上を動くとき、 $r = \frac{\text{ウ}}{2}$ で

あり、これを ① に代入すると、

$$x = 3\cos\theta, \quad y = \sin\theta. \quad \dots\text{②}$$

xy 平面上において、座標が ② で表される点 (x, y) の軌跡は、楕円 $\frac{x^2}{9} + y^2 = 1$ である。



したがって、 には が当てはまる。

(2) $\theta = -\frac{\pi}{4}$ を ① に代入すると、

$$x = \left(r+\frac{2}{r}\right)\cos\left(-\frac{\pi}{4}\right), \quad y = \left(r-\frac{2}{r}\right)\sin\left(-\frac{\pi}{4}\right)$$

$$\begin{aligned} \leftarrow \frac{1}{\cos\theta+i\sin\theta} &= \frac{\cos\theta-i\sin\theta}{(\cos\theta+i\sin\theta)(\cos\theta-i\sin\theta)} \\ &= \frac{\cos\theta-i\sin\theta}{\cos^2\theta+\sin^2\theta} \\ &= \cos\theta-i\sin\theta. \end{aligned}$$

ド・モアブルの定理を用いて求めてもよい。

$$\begin{aligned} &(\cos\theta+i\sin\theta)^{-1} \\ &= \cos(-\theta)+i\sin(-\theta) \\ &= \cos\theta-i\sin\theta. \end{aligned}$$

← ②より、

$$\cos\theta = \frac{x}{3}, \quad \sin\theta = y.$$

これを $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ に代入すると、

$$\frac{x^2}{9} + y^2 = 1.$$

逆に、これを満たすどの (x, y) に対しても ② を満たす実数 θ は存在する。

すなわち,

$$x = \frac{\sqrt{2}}{2} \left(r + \frac{2}{r} \right), \quad y = -\frac{\sqrt{2}}{2} \left(r - \frac{2}{r} \right) \quad \dots \textcircled{3}$$

であるから,

$$\begin{aligned} x-y &= \frac{\sqrt{2}}{2} \left(r + \frac{2}{r} \right) - \left\{ -\frac{\sqrt{2}}{2} \left(r - \frac{2}{r} \right) \right\} \\ &= \sqrt{\frac{\text{オ}}{2}} r, \end{aligned} \quad \dots \textcircled{4}$$

$$\begin{aligned} x+y &= \frac{\sqrt{2}}{2} \left(r + \frac{2}{r} \right) + \left\{ -\frac{\sqrt{2}}{2} \left(r - \frac{2}{r} \right) \right\} \\ &= \frac{\frac{\text{カ}}{2} \sqrt{\frac{\text{キ}}{2}}}{r}. \end{aligned} \quad \dots \textcircled{5}$$

④より,

$$r = \frac{x-y}{\sqrt{2}} \quad \dots \textcircled{4}'$$

であり, さらに, $r > 0$ であるから,

$$\frac{x-y}{\sqrt{2}} > 0.$$

よって

$$y < x. \quad \dots \textcircled{6}$$

また, ④'を⑤に代入すると,

$$x+y = \frac{2\sqrt{2}}{\frac{x-y}{\sqrt{2}}} \left(= \frac{4}{x-y} \right).$$

両辺に $x-y$ を掛けて

$$(x+y)(x-y) = 4 \quad \text{つまり} \quad x^2 - y^2 = 4.$$

したがって

$$\frac{x^2}{4} - \frac{y^2}{4} = 1. \quad \dots \textcircled{7}$$

⑥, ⑦より, xy 平面上において, ③で表される点 (x, y) の軌跡は,

双曲線 $\frac{x^2}{4} - \frac{y^2}{4} = 1$ の $y < x$ を満たす部分である.

← $r > 0$ であることに注意しよう.

⑤と $r > 0$ から

$$x+y > 0$$

を導いて, ⑥の代わりに用いてもよい.

← ④, ⑤の辺々を掛けると,

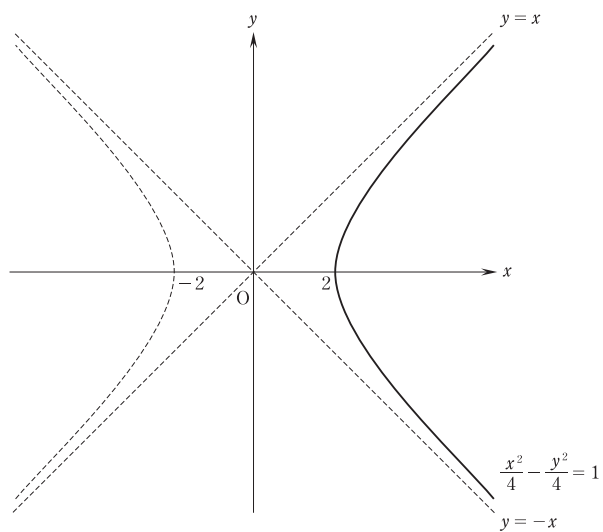
$$(x-y)(x+y) = \sqrt{2}r \cdot \frac{2\sqrt{2}}{r}.$$

このようにして, $x^2 - y^2 = 4$ を得ることもできる.

← ⑥, ⑦を満たすどの (x, y) に対しても,

④により, ④, ⑤を満たす

正の数 r は存在する.



したがって、 には が当てはまる。

← 双曲線 $\frac{x^2}{4} - \frac{y^2}{4} = 1$ の漸近線は、
直線 $y = x$ と直線 $y = -x$ である。

Sample